上総高等学校の性教育の実践

～学校全体で取り組む性教育の基盤づくり～

千葉県立上総高等学校

１. 上総高校について

（１）学校について

本校は、普通科２クラス、園芸科１クラスからなる、全校生徒２２３名の学校である。令和３年度に同市内の君津高等学校との統合を控えており、現１年生は卒業時に新校卒業生となる。生徒は、自然に囲まれた校舎で、穏やかにのびのびと学校生活を送っている。本校の特徴として、学び直しに力を入れているので、中学までは苦手だった学習にもう一度向き合いたいという生徒や、中学時に不登校だった生徒も多く在籍している。しかし、その多くの生徒が本校に来て学習だけでなく、行事や部活動など、前向きに学校生活を送ることができるようになっている。卒業後は約８割が就職、約２割が進学という状況である。

（２）生徒の実態

生徒は、穏やかで真面目な生徒が多い。部活動加入率が低く、放課後は帰宅するか、アルバイトに励む生徒が多く見られる。しかし、少人数ではあるが、部活動に加入し継続的な活動ができている生徒もおり、大会や作品展、コンサートに参加をして活躍している生徒もいる。

昨年度、保健室を利用した生徒は５７５名であった。保健室への来室者に面談をしてみると、その多くが生活習慣の乱れが原因で体調不良を訴えている。例えば、朝食をとらない、だらだらと間食をする、睡眠不足である、無理なダイエットをしているなど、健康への意識は極めて低い傾向にある。また、家族や友人との人間関係の不和による精神不安定も多い。コミュニケーションの未熟さや複雑な家庭環境から、家族や友人との対人トラブルを抱えやすいことが原因として考えられる。そのため、自分に自信がないので、任されたことはやるが自ら進んで何かに挑戦しようとする姿勢は低い。

（３）性に関するアンケート調査（生徒）からわかること　資料①

保健管理部では、平成３０年７月に性に関するアンケート調査を全校生徒に対して行った。（令和元年度も実施している。）この結果から、生徒の性や異性に関する興味・関心は高く、なんとなく性に関する知識を持っているが、正確な知識ではないことがわかった。例えば、女子では、自分の性器を見たことがなかったり、月経の管理ができていないなど、体の発達に自己理解が追いついていない状況が見られた。また、セクシュアルハラスメントやデートＤＶなどは、言葉として聞いたことはあるが内容については知らないなど、知識が乏しいこともわかった。

２. 性教育をおこなううえでの本校の課題

＜学校側の問題＞

性教育の必要性は感じているが、性教育に関する全体指導計画がなく、授業では保健体育科や家庭科の単元として扱う程度であり、教科横断的な性教育は行われていない。また、全校生徒を対象として、外部講師による性に関する保健講話を年１回実施しているのみである。

性教育への無関心・無関係 ⇒ 性教育に学校全体に取り組もうという意識づくり
協力体制の構築

＜生徒側の問題＞

・自分に自信がなく、自己肯定感が低い生徒が多い。　・家庭環境が複雑な生徒が多数いる。
・性的虐待やデート DV の被害者がいる。　・自分の気持ちや意見を表現することが苦手な生徒が多い。
・他者の考え方や生き方を受け入れることができない生徒が多い。
・性に関する興味関心はあり、情報もあふれているが、正しい知識が乏しい。

対人トラブルを抱えやすい
性被害の加害者にも被害者になり得る ⇒ 「自分や他人を大切にしようという考え方を根付かせる」
～デートＤＶや性的虐待などの性被害を理解させる～

３. 学校全体で取り組む組織づくり

本校生徒にとって性教育は非常に重要なものである。しかし、これを進めようとするとき、私たち教員側に性教育を学校教育全体で取り組むという意識が乏しかった。そのため、まずは協力体制の構築が必要であったため、産婦人科医である遠見才希子先生に助言をいただきながら取り組んできた。

平成３０年度の実践

（１）性に関するアンケート調査結果のフィードバック

生徒対象に７月に行ったアンケートの集計結果を職員会議で全職員にフィードバックした。調査時期が１学期だったことで、保健や家庭科で性についての学習をする前の生徒の実態を把握することができた。この結果について、意見を交わす職員がいたり、教科指導や生徒指導上の参考になったという意見が出たりすることも多かった。

（２）年２回の保健講話

毎年１回の保健講話を、７月と１０月の２回実施した。（令和元年度は７月に１回実施）７月の講演会は、性や妊娠・出産についての基礎的な知識について教えて頂いた。１０月の講演では、自分と他人を大切にするための性教育として、男女の考え方の違いや男女交際、性感染症や望まない妊娠などにも触れて教えて頂いた。

平成３０年７月	「大切にしたい　いのち・こころ・からだ」千葉県助産師会　助産師　吉原幸子氏
１０月	「自分も他人も大切にする　生と性のお話」湘南鎌倉総合病院産婦人科 非常勤産婦人科医　遠見　才希子氏

それぞれの保健講話終了後に、生徒・職員を対象に感想を書いてもらった。職員には「今日の講座が今後の生徒指導や、教科指導で生かせそうですか？」という項目を設けたところ、全職員から「そう思う」との結果が得られた。生徒からも以下のような感想が得られた。（一部抜粋）

- 自分の意見をはっきり言うようにしたい。嫌な予感がしたら、すぐに逃げられるようにしておく。
- Ｎｏ　Ｓｅｘ　ｏｒ　コンドーム！！
- 大切な命を守るためには、無理矢理性行為を求めない。
- 相手のことを思いやり、大切にする。
- より多くの知識を学びたい。
- 性感染症の予防や感染の仕方がわかった。
- 自分にも関係あることだと改めて実感した。きちんと責任を持てるかどうかを考えて行動していきたい。

（３）職員への性教育への協力の依頼

職員会議で本校生徒が抱える課題を提示し、その解決に向けて学校全体で性教育に取り組む必要があるということを周知し、全職員に協力を依頼した。

（４）性教育に関するアンケート調査（職員対象）の実施および結果の掲示　資料②

性教育に学校全体で取り組むため各教科、分掌、学年、ホームルーム、委員会、部活動等に協力を求めた。直接的な性教育でなくても良いので、現在実践していることやこれから実践しようとしていることがあるか、情報を集めた。例えば、「生命の誕生」や「妊娠・出産・育児」「家庭生活」「自分や他人を大切にする心を育てる教育」「命の尊さ」などを授業で取り扱っているなど。

全職員を対象としたアンケートだったが、全職員からの回答は得られなかった。この結果について、得られた回答を一覧にして職員室に掲示し、いつでも他の職員の実践を参考にできるようにした。

（５）保健委員会の活動　「かずさの花畑」

年間を通じた保健委員会の健康推進活動として、全校生徒・職員に協力を求めた。

〈目的〉
・自分自身を大切にしようという考え方を根付かせる。
・生徒の自己理解、他者理解、自己肯定感の向上をはかる。

〈方法〉
全校生徒で中央廊下の壁面に掲示物で花畑を作っていく。「嬉しかったこと」「頑張ったこと」「みんなと共有したい良い話」「感謝の気持ち」などを書ける花型のカードを設置しておき、記入して自分で壁に貼る。匿名でもかまわない。

４. 成果と今後の課題

学校全体で取り組む性教育の基盤づくりという点で大きな成果はないが、この取り組みを通じて生徒の性に関する知識の実態を把握することができたことは、私たちが生徒指導をおこなううえで大変重要なことであった。また、職員会議で性教育について話題にあげたり、職員アンケートを行ったりしたことで、職員の性教育に対する関心を以前より高めることができた。

（例）・教科間で授業で扱う内容についての情報交換
→　相互に授業参観をして授業練磨につながった。
→　授業で教えきれない範囲について、他教科でフォローができた。
・教科間での教材の貸し借りをおこなったことで、実習ができた。
（理科→保健体育）フェノールフタレイン液　（家庭科→保健体育）妊婦体験キット　新生児人形

（保健の授業の様子）

平成３０年度は「性と生」「他人と自分の性と生」、令和元年度「デートＤＶ」と段階を追って保健講演会を組み立てたことによって、生徒の理解に寄り添った内容を伝えることができた。今後も、本校生徒にとって必要なテーマについてよく検討して保健講演会を計画していきたい。

保健委員会の活動としておこなってきた「かずさの花畑」は、企画を提案した当初は「良い取り組みだけれど、高校では難しいのではないか」という意見が職員からも多くあり、生徒もあまり興味を持たなかった。しかし、根気強く定期的に全校へ参加を呼び掛けていくうちに、たくさんの生徒や職員の協力が得られるようになった。掲示するカードが増えていくと、次第に中央廊下が華やかになり、立ち止まって見る生徒も増えていった。文化祭では、本校生徒だけでなく一般客の参加も得られた。かずさの花畑は、美術部の協力によりデザインや台紙の制作が行われており、保健委員と美術部員が一丸となって作りあげる企画となったことも、「全校で取り組む活動」の第１歩として、とても有意義なものである。今後、さらにこの活動を盛り上げていくために、委員会での検討が必要である。

〈文化祭での発表の様子〉

〈令和元年７月現在の様子〉

平成３０年度から、「学校全体で取り組む性教育の基盤づくり」に重きを置いて取り組んできたが、現時点では性教育に関する全体指導計画の策定には至っていない。しかし、今回の実践をとおしてその足がかりとなる取り組みができた。職員は性教育の必要性を感じていることから、場面ごとに的確な指導ができるよう、性教育に学校全体で取り組もうという意識づくりや、一人で抱え込まない協力体制づくりをすることが本校にとって重要である。

５. 参考資料

①性に関するアンケート調査用紙（生徒）　　②性教育に関するアンケート調査結果（職員）

資料①

性に関するアンケート調査

友達の用紙をのぞいたり、何を書いたか聞くことはしないでください。
どうしても答えたくない場合は、答えなくてもかまいません。
無記名なので、自分自身の考えで回答してください。

資料②

性教育に関するアンケート（職員）集計結果

平成３０年１０月２２日実施

対象：校長、教頭、教諭、養護教諭、講師、実習助手　計４３名　　回答数　１３／４３

１　今年度の２回の保健講話について

（1）生徒の実態に合ったないようだったか。

そう思う　12　そう思わない　0　どちらともいえない　0

（2）日々の指導の中で生かせそうな内容はあったか。

ある　13　ない　0

2　学校全体で性教育に取り組むうえで、何かすでに実践していること（できそうなこと）があるか。

分野	内容・単元名
保健	教科指導の充実　「性感染症・エイズとその予防」「思春期と健康」「性への関心・欲求と性行動」 「妊娠・出産と健康」「避妊法と人工妊娠中絶、結婚生活と健康」
家庭科	保育分野「親になるということ」「こどもがうまれるということ」 家族・家庭の法律分野「家族・家庭に関する法律」のなかでデートDVや妊娠に関連づけられる。
生物	第２章　遺伝とその働き １.進化の過程で受精卵を学習している。２.哺乳類の有性生殖について触れている。 さまざまな場面で、生物的アプローチから説明している。
英語	LGBTを意識して「〇〇さん呼び」を意識している。
現代社会	「青年期」「社会とのかかわり」「日本国憲法」平等権・自由権・新しい人権」 「労働問題」「民主社会に生きる倫理」
現代文	キャッチコピーや韻文を生徒に考えさせている。例えば、美術部とコラボで国語の授業内で ポスターのキャッチフレーズをつくる。
国語	授業中に、関係性のある場面でふれる。
道徳	性や命の話についてとりあげる。
LHR	道徳の一環として性教育を取り上げても良い。
ホームルーム	男女交際に関連する悩み、トラブルの相談。それからくる問題への対処。
１学年	「ちがいをみとめ合おう」掲示物で常に教室掲示をしている。
校内掲示物	「この世の中で意味のないものは何もない　だから大切にしよう　『あなたも』　『わたしも』 そして　『わたしたち』も」
保健室	友達や異性、家族との関わり方についての相談。
保健管理部	保健講話　「大切にしたい　いのち・こころ・からだ」　吉原幸子先生 「自分も他人も大切にする　生と性のお話」　遠見才希子先生 性に関するアンケート調査（生徒）、性教育についてのアンケート調査（職員）
保健委員会	２０１８かずさの花畑の企画・運営
美術部	かずさの花畑（掲示物作成）